

沖永良部島知名町田皆方言の助詞文例

野原, 三義

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

4

(開始ページ / Start Page)

127

(終了ページ / End Page)

135

(発行年 / Year)

1978-11-25

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012773>

沖永良部島知名町田皆方言の助詞文例

野 原 三 義

助詞文例

以下の調査は1977年12月26日東条恒雄氏(1925年生)より行ったものである。

çu:wa wa:ga: itjiban sakini uitan
今日は 私が 一番 先に 起きた
係助詞<は>はwaが一般的であるが、年寄や歌等にはjaもみられる。

nata:ga umengjatarā: wanumu ma-
貴人が いらっしゃるなら 私も (ho: 一
gini ika:
ni)
緒に 行こう

ikja:bura: <行きましょう。丁寧な言い方> (itja:bura: 一和泊)

taro:ga: ganji ittſutan
(gan)
太郎が そう いていた

taro:nja: dikiran 太郎には できない

ura:nimu dikinja: dikiramu ana:gi:

君にも できるか できないだろう

anu ja:wa wa: honkedo:

あの 家は 私の 本家だ

mutu ja: <本家>は古い言い方

furija: ta:mun jo これは 誰の物か

uui mi:ga ikjun 踊り 見に 行く

angagutu hatarakimunwa ura:mu
(uran)
彼のように 働く者は いない

?arija wakaifiga wannja: kika:tſi

彼は 分かるが 私には 聞かして

kuriramu
(n)
くれぬ

打消の-muは-nでもよい。両形併存である。

he:sa: tuinu ũu:nu mun

早く 取る 人の もの

he:san <早い>

çi:nu jida:ni hana:nu sakkin

木の 枝に 花の 咲く

junnunu ſima: 与論の島

tukunu ſima 徳の島 ?irabunu ſima:

沖永良部の島 funu ſima 此の島

amane: mja:rifiſja nu:jo:

むこうに 見えるのは 何か

ma:<ここ> ma:ga:tſi <ここへ>

uda: <どこ>

ama:ga ?igiru:diſi gaitſutan

母さんが 行って来いと いった

ſinse: ga:tſi gaimu 先生に いう

uraga gaiſiwa koimudiſi umin
(n)

君が 言うのは うそと 思う

koimu は田皆独得な言い方で,tannja koimu
と言われる。他の地域ではmuniçingi という。

mitſainu utſi tankadi umin

三人の うち 誰かと思う

mitſainu utſinu ũuidi umindo:

三人の うちの 一人と 思うよ

anu ũu:nu uja:ja bjo:ki di:mu

あの 人の 親は 病気 だそうだし

ja:dun <病気している> atja: <父>

ama: <母>

rainu mi tu:tſi kuriri

針の 孔 通して くれ

tataminu çi:ja kumuna

畳の へりは 踏むな

wa: amaga ume:mu 私の母がいらっし

やる ^(kin)ki:mu <来る>
 figutunu haʒime 仕事の はじめ
 haʒimera: <はじめよう>
 nuimunnu atuja so:ʒinu ʔa:mu_(an)
 縫い物の 後は 掃除が ある
 iʒaʃimugara iʒasamugara gaitʃutan
 出すとか 出さないとか 言っていた
 ura: uda:nu kkwa:jo: お前はどこの
 子か
 to:ʒo:ja:nu kkwa:do: 東条屋の 子
 だよ
 kkwa:diro:do: 子ですよ
 nata: fida:gwa:wa: ikuʃinu tukinu
 貴方の 長男は いくつの 時の
 kwa:jo:
 子か
 fida:gwa:wa unagunu kwa:diro:
 最初の子は 女の 子だそうだ
 unai <姉妹> utudʒa <男女ひつくるめ
 て、親友にもいう>
 ʒu:rokunu tukinu kkwa:do:
 16才の 時の 子だ
 ja:di, watta:nu ja:di tamaramu_(n)
 痛い 腹が 痛くてたまらない
 uma:ne: habunu uttaʃiga nu:mu_(ikja:mu)
 そこに ハブが いたが ^(何も)
 ʃiradana attamu_(n) (どのようにも)
 しなかった
 ʃiradana attina: しなかったか
 ʔo:nuzu: <青大将> ʔajamanta <アカ
 マターのことか。ハブを捕える>
 haʒinu fukkin 風が吹く
 anu ʃu:ja hakkanga:ne: mudutan
 あの 人は 書かないで 戻った
 wa:ga: haʃkʃimu_(n) 私が 書く

nedannu takasan 値段が 高い
 funu ʃinamunuja takasanu ho:raran
 この 品物は 高く 買えない
 ʕi:nu mi: 木の 実
 aminu fuimu 雨が降る
 jaku:ja aʃa:gaʃi nittʃi: aja:ja a-
 兄さんは 父さんに 似て 姉さんは 母
 ma:gaʃi nittʃun
 さんに 似ている
 mi: <兄さん, 上流階級>。 fida:nu
 mi:ja: <長男, 不自然な言い方>
 fida:nu mi:gwa: "
 unaiganafi という言葉がある。
 unaini hagani: kurin 妹に 鏡 くれる
 女の名前 nabi:, kani, ufi:, magu等, こう
 いう名前を ʃimana: という。
 ja:nu ʃu:ja mu:nu ja:ne: un
 家の 人は 皆 家に いる
 suppai mukka nattan すっかり なく
 なった
 suppai はあまり使わない。
 ʔama:ʃi_(gaʃi) ikingjatara: amaranindo:
 むこうへ 行くと おこられるぞ
 ikija: <行くと>, iku:tu <行くと>,
 amain <叱られる>
 wakja:ga inkusanu tukinija ʃima:nu
 私達が 若い(小さい)時には シマの
 hazurene: uma:gisanu ʕi:nu tattʃut-
 はずれに 大きい 木が 立って
 an
 いた
 wa:sanu tukinija 若い時には
 ujanu ni:ne: ura: 親の 所に 居ろう
 tanni: kuritijo: 誰に くれたか

atʃa:ja ʃigutugatʃi iʒan 父は 仕事に
行った

habine: hatʃi umutine: utiʃikin
紙に 書いて 表に 打ちつける
haiʃikin <はり出す>, mi:mu_(n) <見る>
hana mi:gaʃi ika: 花 見に 行こう
ho:iga ika: 買いに 行こう
ʃiga ika: 為に 行こう

utuni hakkasa: 弟に 書かせよう

hakkaʃimu_(n) 書かせる
nazegaʃi iʃimu_(n) 名瀬へ 行く
junnugatʃi iʃimu_(n) 与論へ 行く
ʃaba:na <茶花>

umani nuimu 馬に 乗る
uraja udagaʃi iʃijo: 君は どこへ
行くか

fumakara muko:ntʃane: tubiʃuiri
ここから むこうまで とび越えなさい
hakuja ʃi:ʃi tsukuin 箱は 木で
作る

funʃi tsukurarinnja これで 作られ
るか

rudifi: hakkin 筆で 書く
aʒiga umo:ʃanugutu ʃiri:
ばあさんが おっしゃるように しなさい
amiʒa tinkara ruimu 雨は 天から
降る

tuʒinu kinju ʃinnifi konijagaʃi i-
妻が 昨日 船で 古仁屋へ い
ざん
った

ʔubi <帯>, kikibi <帯, 古い言い方>

ʃitimitikara junentʃane hatarakin
早朝から 晩まで 働く

me:ʃi <朝食>, aʃi: <昼食>, ʒi:

<夕食>, nissare: <間食>

sakiwa fumiʃi tsukuin 酒は 米で
作る

gja:gjaʒa hamakara atʃiwuttan
じいさんは 浜から 歩いていた
gja:gjaʒa miʃikara atʃiwuttan
じいさんは 道から 歩いていた
na:ni: <波>, ʔu:na:ni: <大波>

ʔaburaʃiʃi:kara ho:ti fu:
油肉から 買って 来い

ma:ʃiʃikara ho:ti fu: 赤肉から 買
って 来い

fugumimo:ʃi: wadumaigaʃi iʒan
知名経由で 和泊へ 行った

ʃu:kara hakki haʒimemu_(n)
今日から 書き はじめる

uma:ʃi kitʃan 馬で 来た
ʃinnifi kitʃan 船で 来た
uma(:)ne: nutti kitʃan 馬に 乗っ
て 来た

namantʃane: matʃimu_(Fun) fu:mu
今まで 待っても 来ない

ʃiʃikinu ʔagaruntʃane hataratʃi kitʃamu_(n)
月の 上るまで 働いて 来た

warankjanu ʔai mitʃai mja:naneti
子供らが 二三人 庭で

aʃidun

遊んでいる

funu jama:ʒa anu jama:nika taka-
この 山は あの 山より 高
taka

samu
saa:mu
い

fuzunika futuʃiʒa nukusan
去年より 今年は 温い (a:mu)

ʔinutu mja:tu uduruga ʃikki:ʒo:

犬と 猫と どちらが 好きか
 hafikitu ʔusutu fu:ti fu:
 蒸籠と 臼と 借りて 来い
 hafiki と言ったかどうか、はっきりしない
 とのこと。

ruba <蒲葵>, gagimaru <カジマル>
 ʔikitu fufija jurudu izimu_(n)
 月と 星は 夜 出る
 jurudu iziru 夜 出る
 ʔamatu mazi:ni ikin 親と 一緒に
 (uja) (ho:ni)
 行く

sugu muduti fu:ditʃi amaga gaitʃa-
 すぐ 戻って 来いと 母さんが いっ
 mu
 (n)
 た

" umo:ʃan
 おっしやった

ikantu naramuditʃi gaitʃutan
 行かねば ならないと 言っていた
 anu ʃu:nu hakkimuditʃi gaitʃutan
 あの 人が 書くと言っていた
 habi:ne: sumifi: dʒi: hakkin
 紙に 墨で 字 書く
 dʒi:ba hakkin 字を 書く
 kusa: tuin 草 取る
 kusaba tuin とはあまりいえない
 namaeba teineini hakki:
 名前をば 丁寧に 書け
 dʒo:ʒini 上手に
 furi: mutti: これ 持て
 furiba mutti: になると強調
 na:ʃadu ki:mu 明日ぞ 来る
 (kin)
 hannjanu kiba:raʃika na:mu
 こんな 着物しか ない
 wa:gadu jumimu 私が 読む

ma:ʃanu ʃu:nidu kurin
 勝った 人に 呉れる
 mo:ʃanu ʃu 死んだ 人
 mutʃi:du tsukuin 餅ぞ 作る
 wa:gadu hakkimu 私がぞ 書く
 wa:ga hakkin 私が 書く
 furi:du jukwa a:mu これが 良い
 muʃi utu:nu urangjatarā: sugu
 もし 弟が いなかったら すぐ
 muduti fu:jo:
 戻って 来いよ
 furi wafiringjatarā: jurusando:
 これ 忘れたら 許さんぞ
 kikando: 聞かないぞ
 dʒa:ʒaja itʃi mudu:ti ume:rukaja:
 じいさんは いつ 戻って いらっしゃるか
 dʒa:ʒa より gja:gja の方が純粹, 正名や住
 吉まではそういう。

ta:ga kikaʃigaʃara wakaran
 誰が 知らしたかしら 分からない
 furiʃa nu:kaja: これは 何かしら
 dʒi: jumaraʃija wantʃuikaja:
 字 読めないのは 私一人だろうか
 wanumu ho:ni kama:
 (mazi:ni)
 私も 一緒に 食べよう
 furimu arimu mu:nu jukwa:n
 これも あれも 皆 よい
 funagitimu funagiradana attimu ura
 捨てようが 捨てまいが 君
 te:dʒa:ru
 勝手だ
 nankwammu ʃibuimu de:kunimu tut-
 かぼちゃも 冬瓜も 大根も 取
 ti: fu:jo:
 って 来いよ

matʃi:mu gaʒimarumu mi:tumu_(n)
 松も ガジマルも 生えている
 u:na:minu agati kiʃi ja:gadi na-
 大波の 上がって 来て 家まで
 ʒasattamu_(n)
 流された

taro:mu kiʃunnja: 太郎も 来ている
 か

ʔe:timu kuritimu una:ʒikutu gaitʃun
 明けても 暮れても 同じこと 言う
 ʔe:in <明ける>

ʔikja: gaitʃimu kikan
 どう 言っても 聞かん

ari ʔattimu ruri jattimu kamo:r-
 あ れでも こ れでも かまわ
 amu
 ない

” jukwa:mu_(n)
 よい

hattʃimu hakkadana: attimu jukwa:n
 書いても 書かなくても よい
 mi:mu kutʃimu na:mu_(nan) 目も 口も な
 い

uttidu kiʃamu ana:dʒi:
 一昨日ぞ 来たんだろう

furi:ja tantaga mun jo:
 これは 誰達の ものか

ʔo:ja ki:samu 栗は きいろい
 ho: <川>, to:ra <俵>

ʔinu:ja ujakatanu ʔi:ʃi kikin
 犬は 主人の 言うの 聞く

no:ʃi <飼主>

kurusaja ʃu:sanika warusamu
 黒は 白より 悪い

he:sa uirija munu:nu muro(:)rarin

早く 起きれば 物は もらえる

uraja sugu he:sa ru:jo:
 (ura:)
 君は すぐ 早く 来いよ

runu ja:ja uma:gisa ʔan ja:
 この 家は 大きい ね
 unu <その>

warankjawa_(ja) udagaʃi iʒijo:
 子供らは どこへ 行ったか

kwankjaja <子供達は>

runnika ari:du jukwa an
 これより あれが よい

sanʃirunika kotodu jukwa:n
 三味線より 琴が よい

gannjanu kutu: ʃi:ʃiwa ura:nika
 そんな こと するのは お前より
 rukaniwa uran

外には いない

sata:ja ʔama:safiga ʃu:ja hara:
 砂糖は 甘いが 塩は から

san

い

hara:samu は、ゆっくり言えば hara:sa_(n)
 ʔa:mu になるとのこと

uranika rukanewa warusanu kutu:
 お前より 外には 悪い こと

ʃi:ʃija uran
 するのは いない

wanuja fujunika natʃidu jukwa:n
 私は 冬より 夏が よい

urani: kuriʃija nu:mu na:n
 お前に やるのは 何も ない

ʔuraja munu:mu kamanga:ne: udaga-
 お前は 御飯も 食わずに どこ

ʃi iʒijo:

へ 行ったか

suna:ja hamanidu ʔa:mu 砂は 浜に
 (ʔan)
 ぞ ある
 ʔanu ʔu:ja hakkanga:ne: muduti i-
 あの 人は 書かずに 戻って 行
 ʒijo:
 った
 ʔanu ʔu:ja hakkimuditi ʒaiʔan
 あの 人は 書くと 言った
 gannjanu ni:ne: na: hakkuna
 そんな 所に 名 書くな
 ʔanu jamaja takasan あの 山は
 高い
 ʔanu jamaja ganfigadu takasa:na:n
 あの 山は それほど 高くない
 fungadi wakaranumun nu:nu wakaijo:
 これさえ 分からないのに 何が 分かるか
 unagu attimu diki-numun jinganu d-
 女で さえ できるのに 男が
 ikiramudi:nu kutunu annja
 できないという ことが あるか
 unagunʔu diki-numun jinganu dikira-
 女さえ できるのに 男が できな
 mudi:nu kutunu annja
 いという ことが あるか
 dikiramudi:nu kutuja na:mu
 できないという ことは ない
 gja:gjaja sakibe: ʔoifun
 じいさんは 酒ばかり あがっている
 ʔikuʔibe: anka judimi:
 いくつばかりあるか数えてみよ
 runu ʔju:ja ikjassabe: si:jo:
 この 魚は いくらぐらい するか
 wan ʔuikja: ikin 私 一人だけ 行く
 ikja:fi ganfigadi jafitijo:
 どうして そんなにまで やせたか

ʔufuʔunkja:mu warankja:mu mandi
 大人達も 子供達も 沢山
 un
 いる
 ʔanu ʔu:nugutufi: hatarakinu ʔu:ja
 あの 人のように 働く 人は
 uran
 いない
 ʔanu ʔu:nugutufi:ja wanumu haʔa
 (ʔattimu)
 あの 人のようには 私でも 働
 rakaran
 けない
 atune: ʔuidake nokoinnja
 後に 一人だけ 残るか
 ʔikja:fi ʔaganʒi juasa ankaja:
 どうして あんなに 弱い のか
 ʔikinu agaruntane rate: kjaimu
 月が 上がるまで 畑 耕す
 kjaimu <鋤で耕す>, fikkimu <鋤
 で耕す>
 wakjamu ʔumane: nuibufa anja:
 私達も 馬に 乗りたいなあ
 natatamu ho:jaburadʒi:
 貴方達も 買いませんか
 ma:ne: ʔannja: ここに あるか
 udane: ʔaijo: どこに あるか
 koimu ʒinna: うそ つくな
 ba:baja ja:ne: umennja:
 ばあさんは 家に いらっしゃるかしら
 kondo umenu ʔu:ja uʒa:kaja:
 今度 いらっしゃる人はおじさんかなあ
 nama ikija mani o:indo:
 今 行けば まに あうよ
 anu me:rabija kjurasando:
 あの 娘は 美しいよ

anu me:rabija fittai kjurasanu h-
 あの 娘は 大変 美しい
 a:gi
 だろう
 me:rabi は年頃の女の子, unagunu kwa
 や warankja は小学生くらいの女の子。
 ura: ikinnja: ika:gi:
 君は 行くか 行かんか
 furi:na: ?ari:na: これか あれか
 furi: ?ari: これだ あれだ
 to: tutti ki:mu 蛸 取って 来る
 o:batfa: <ぶだいの一種>, mi:bai <め
 ばる>
 ?asati kindo: 明後日 来るよ
 runu figutuja nareradana: tʃikarindo:
 この 仕事は 馴れないから 疲れるよ
 ho:rafa attanja: 嬉しかったなあ
 runtoni na:dagadi utuʃando:
 本当に 涙まで 落としたよ
 jukwa kakko:ʒaja: よい 格好だなあ
 jukwamundʒaja 上等だね
 migirafaja: 珍しいなあ
 ?utindo: 落ちるぞう
 ?ariga time:tufija udurukaja:
 彼が 捜しているのは どれかなあ
 ganfingutuni ju: ki:tʃikirijo:diʃi ga-
 だから よく 気をつけろと 言
 indoja:
 うのだよ
 ukja ju: kangerijo:ja:
 君ら よく 考^るえ^るよ
 (るんだよ)
 warabitu ju:guri sinnajo:
 子供と けんか するなよ
 ?e: ?e: nata:tawa ikja:fi nissa:
 これ これ 貴方は どうして 遅く

najabutijo:
 なったか
 finfeja namadu umo:ʃina:
 先生は 今ぞ いらっしゃったのか
 namadu kitʃina: 今ぞ 来たか
 ?abe: na:nai uma:gisa attamu ana-
 あれ!! もっと 大きかつ たでは な
 :gi:
 いか
 ?abe: は, びっくりしたときに発する言葉。
 ?a:sanu hanaja tinsagu , fu:sanu
 赤い 花は 鳳仙花 白い
 hanaja de:kuni
 花は 大根
 仏桑華のことを田皆以外で gusuku bana
 という
 kju:nu juruja fufinu igiti kjura-
 今日の 夜は 星が 出て きれい
 sando:
 だろうなあ
 ki:gafi:ra: fungara: ?atenainja:
 来るやら 来ぬやら あてになるものか
 hassadakeja mutʃi fu:
 これだけは 持って 来い
 rumi:dakeja mutʃujo:
 米だけは 持って来いよ
 ariga kingjataru wakain
 あれが 来れば 分かる
 angjataru wanni kuriri
 あったら 私に くれれ
 ?aminu futtimu haginu futʃimu wa-
 雨が 降っても 風が 吹いても 私
 na: ika:simu ikin
 は どうしても 行く
 june:ja ʒigjurusu angutuni fukaga-

夕方は 寒い から 外
 tʃija ɪgɪrarando:
 へは 出られんよ
 wa:ga: hakkingutuni uraja hakkada-
 私が 書くから 君は 書かな
 namu: jukwaan
 くても よい
 ʔunigaʃi ikigatʃena: fategatʃi kuja-
 海へ 行きながら 畑へ 肥
 ʃi: mutʃi ikin
 料 持って 行く
 wakaigatʃe:na: oʃietʃikuriran
 (kikaʃi)
 分かりながら 教えてくれない
 ganʃimu ganʃiradana attimu ura
 そうしても そうしなく ても 君
 katte
 勝手
 nu:ditʃimu kikan 何といっても 聞か
 ぬ
 uranika takasan 君より 高い
 ʃu:ja ikanga:ne: na:tʃa ika:
 今日は 行かないで 明日 行こう
 iki <行け>
 jumanga:ne muduti fu:
 読まないで 戻って 来い
 nakkanga:ne: ʔakki 涙かないで 歩け
 ʔuiti mi: 起きてみよ
 natʃija ʃi:nu nagasan
 夏は 日が 長い
 natʃija ʃi:ja nagasan
 夏は 日は 長い
 natʃija juruja miʃikasan
 夏は 夜は 短い
 hakkija hakkarin 書けば 書ける
 takasangjatara: honna

高いならば 買うな
 takasanudake nubuibufaan
 高い程 登りたい
 ma:gaʃi fu: ここへ 来い
 hakkingjatara: hakki 書くならば書け
 wannja: dikiran 私には できない
 wanu arija: ʃin 私なら する
 miʒi attimu numibufa: an
 水 でも 飲みたい
 taru attimu fu: 誰でも 来い
 wanu fu:ditʃi umo:tʃan
 私 来いと おっしゃった
 wanuba fu:ditʃi umo:tʃan
 私をば 来いと おっしゃった (上の強
 調)
 haʒinu rukkija hananu tʃin
 風が 吹くと 花が 散る
 ʔannja: na:ʒi: あるか ないか
 ʔanka: nanka wakaran
 あるか ないか 分からない
 ʔanka: nanka wakaraʒi:
 あるか ないか 分からないのか
 ʔabitimu ʔufu: mi:mu ʃira:mu
 (n)
 呼んでも 後 見も しない
 ʔabitimu kikamu 呼んでも 聞かない
 matʃu:taʃiga fu:dana ʔattan
 待っていたが 来なかった
 matʃuʃiga fu:mu 待っているが来ない
 ko:ke:ʃi:mu ikja:mu naradana att-
 後悔しても どうも ならな かつ
 an
 た
 gainu kutuʃa:nu de:ʒina kutuja ʔ-
 言う ほどの 大事な 事では
 ana:mu

ない
 gangadija ʔana:mu それ程では ない
 mi:gaŋe:na ikin 見ながら 行く
 na: ja:gaŋi mudura: もう 家へ 帰
 ろう
 na:nai si:kara mudura:
 もう少し してから 戻ろう
 kurija ta:munkaja: これは 誰のもの
 かな

akijo: <あ>, 感動詞>, de:gi ku=
 tudga: <大変なことだ>, hakkindo:
 <書くぞ>, ſinsa:n <悲しい>, ʔuni:
 <鬼>, ʔuni:do: <鬼だぞ>, ſu:ta: は
 ɕakufo: <百姓>に対する支配者。 ʔwa:
 <豚>